長崎女子商業高校と議員との意見交換会　概要

〇参加者　議員：白川鮎美議員、虎島泰洋議員　　生徒：３年生 ２名、２年生 ３名

〇発表テーマ：人間と動物とが共生できる社会

〇意見交換会要旨

（虎島泰洋議員）

犬・猫の殺処分が多い問題について、県議会でも度々取り上げられていて、県においても殺処分ゼロに向けて取り組んでいるところですが、まだまだゼロにはなっていないし、地域猫など多くの課題があることから、非常に重要なテーマだと思います。

このテーマを取り上げようと思った理由は何ですか。

（生徒）

自分が飼っている犬は、自分の家で飼わなかったら保健所に連れていかれる予定の犬だったので、殺処分があることは知っていたけど、この問題をより身近なものだと感じて、解決したいと思ったからです。

（虎島泰洋議員）

いろいろなアプローチがある中で、ペット税の導入を考えたのはどのような理由ですか。

（生徒）

日本において過去に犬税があったことを知っていて、ドイツなどの動物愛護先進国でもそのような施策をとっているので、この問題への効果的な改善策だと思いました。

（虎島泰洋議員）

殺処分を減らそうという理由から、保健所などから引き取り飼っている人に対して、ペット税を課すとなると、何もしていない人よりその人たちに余計に負担を負わせることになると思うけど、その不公平感についてどのように考えてますか。

（生徒）

動物を飼うということは責任が伴うとこだと思うし、多頭飼育崩壊など問題となっていることから、その責任感を継続して持ってもらうためには必要なことだと考えました。

（白川鮎美議員）

この問題を解決するために財源が必要だということは、そのとおりだと思います。

私自身も、平和都市長崎とうたっているので、小さな命も大切にする長崎であってほしくてこの問題に取り組んでいます。その中で、保護猫・保護犬の活動をされているNPOの団体がいて、動物管理センターと市民への譲渡の間をつなぐそのような方々のおかげで、殺処分数が減っているという現状があるにもかかわらず、その人たちに対する助成が非常に乏しいと感じています。保護活動をしている方への支援や地域猫に対する不妊化手術の助成など、それらの施策の財源の確保は必要だと思うけど、ペット税導入による負担の不公平感をどうするのか。納税したくないから、飼育放棄といった逆効果も懸念され、ペット税の導入の前に、責任を持って飼いましょうということを市民に理解してもらうための教育や周知活動など、段階的に社会の意識改革を行っていくほうが良いのかなと思う。

「動物に社会的な役割を与える」とは、具体的にどのようなことを考えているんですか。
（生徒）
人間と動物との共生ということで、互いにウィンウィンな関係であることが必要と思っていて、アニマルセラピーの取組や、動物と一緒に散歩するさるくツアーや長崎の街並みと猫といった観光商品などの施策があると良いと思います。
（白川鮎美議員）
長崎の PR に猫を使っているので、それだけではなく、さるくなどの観光資源に活用することは良い取組だと思うので、今回の発表に盛り込めればより良くなったと思う。
また、指摘があった「個人として活動している人たちをまとめる団体がない」ということは、正に問題だと思っています。
（虎島泰洋議員）
来年整備される県の動物愛護管理センターが、ハード面だけはなく、そのようなソフト面の機能も担うとされていますよね。
（白川鮎美議員）
飼育崩壊の問題は福祉的な支援も必要だと言われているので、包括的な対策をとってほしいですね。
（虎島泰洋議員）
具体策として挙がっている「ふるさと納税」については、動物愛護に関する取組を使途とするものとして、今年度は約 6,000 万円の寄付があったようですよ。
（白川鮎美議員）
政治って何か遠いものだと思われがちだけど、今回身近な課題について掘り下げてもらって分かるように、政治にたどり着くことって多いんですよね。
今回の経験を踏まえ、日頃から何でだろうと思うことについて掘り下げ、私たち議員にはない視点を持っているので、自分たちで考えたり、私たちにも伝えたりしてほしいなと思います。
（虎島泰洋議員）
昔から決まっていることとして諦めるんではなく、解決のために政治を使うなどいろいろなことにチャレンジしてほしいです。